

病院だより

January 2012
復刊 第321号
平成24年1月1日発行

1月号

okayama hospital
association

社団法人岡山県病院協会

〒703-8278 岡山市中区古京町1-1-10
電話:086-272-6400

- 発行人/会長 小出尚志
- 編集人/佐藤能之
- 印刷所/株式会社中野コロタイプ



昇 陽

倉敷記念病院 顧問 瀬崎達雄氏 撮影

Contents

2012年のスタートにあたって	2	第2回栄養管理研究会(管理栄養士・栄養士研修会)	12
経営管理研修会特集		支部だより(岡山)	13
平成23年度経営管理研修会	4	岡山県医薬安全課からのお知らせ	13
病院実態調査報告	4	中国四国厚生局岡山事務所からのお知らせ	13
講演 I~IV	5	最近感じたこと	14
グループ討議まとめ	7	今月のkeyワード	
第5回理事会(第9回常務理事会)	10	「TPP『環太平洋戦略的経済連携協定』」	14
第4回看護研究会(管理者研修会)	11	編集後記	14

スタートにあたって

節目の年



（財）岡山県病院協会
会長 小出 尚志

新年明けましておめでとうございます。
今年2012年は、私たち岡山県病院協会にとつて大きな節目の年となります。当協会の創設は昭和37年、今年が設立50周年に当たり、秋には記念行事や式典を予定しています。そしてまた、公益法人制度改革に伴って、新法人「一般社団法人岡山県病院協会」に生まれ変わって新しいスタートをきる年でもあります。

さて、少子高齢化の進展と経済の低迷で苦悩する我が国では、さらに百年に一度の金融危機や千年に一度の大震災、史上最大級の原発事故などを経て、いっそう深刻な財政難から社会保障が大きく揺らいでいます。遠からず、消費税をはじめとする国民の負担増は避けられないでしょう。すでに中福祉・中負担の時代は過ぎ去り、これからは、中福祉を望むなら高負担を覚悟しなければならぬ時代がきたように思われます。しかし、どのような時代であろうとも、私たち病院医療を担う者の使命は、良い病院づくりを通して良い医療を提供し、社会に貢献することです。会員の皆様の「絆」を大切に、先達たちが築いてきた輝かしい半世紀の歴史の上に温故知新の一步を踏み出せることを願う年頭です。
本年が、皆様にとって良い年となりますように祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

岡山支部長

万成病院
理事長 院長 小林 建太郎

新年明けましておめでとうございます。
岡山県病院協会は今年設立50周年を迎えます。昨年は東日本大震災で多くの尊い命が失われ、辛い年でした。原発事故は現在進行形で長期的支援が必要ですが、そのなかで人と人の絆の美しさも実感できた年でした。

世界中に閉塞感が充満しているなか、本年の診療・介護報酬同時改定も厳しいものとなりそうです。法定福利費の異常な伸びに加えて、消費税もアップすれば現行制度では医療機関の存続は難しいでしょう。ただ厳しい時代だからこそ地域社会に貢献できる病院でありたいと願っています。会員みなさまの笑顔とともに、本年もご指導のほどよろしくお祈りいたします。

玉野・児島支部長

児島聖康病院
理事長 院長 山崎 泰弘

新年あけましておめでとうございます。
昨年は大変な年でした。3・11の東日本大震災は未曾有の大災害でした。また、福島原発事故もいつ解決するのかわからない状態です。時の政府は、菅首相から野田首相に変わってもぱつとしません。いろいろな改革を売り物にして政権与党にはなりませんが、何一つ実行出来ず、改悪傾向にあると思います。官僚、特に財務官僚の意のままの政治では我々にとって大変なことになります。特に今年は、診療報酬の大幅な改定があり、どうなるか不安です。

その中で、我々は地域住民の健康を守っていくしなければいけません。そのためには、会員病院が相互に連携・協力してその任を果たすべく努力をしていきたいと思います。
本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

倉敷支部長

水島中央病院
院長 中務 治重

新年明けましておめでとうございます。
平成23年は日本苦難の年でした。東日本大震災と巨天津波、福島原発の放射能事故は私たち日本人の生き方そのものが問われたように思います。医療にも問題点が山積みです。膨張する国民医療費、医学の進歩と高額医療・医療財政、医師・看護師不足、救急医療が抱える諸問題、終末期医療、医師法第21条の異常死届け出問題、医師臨床研修制度や小児医療無料化の功罪など、いずれも難問です。財務省は、診療報酬を1%引き上げると医療費が360億円増加すると試算し、今年の診療報酬改定は最終的に0.04%プラスとなりました。近い将来の確実な社会・医療像を思い描きながら、少なくとも医療の最前線に精一杯頑張っている地域の中小病院を支援するような改定が望まれます。
平成24年が明るい展望の開ける年になりますように。

井笠支部長

金光病院
理事長 院長 難波 義夫

新年あけましておめでとうございます。
本年は医療・介護報酬同時改定の年であり、政府も社会保障と税の一体改革で模索中ですが、各関係団体はそれぞれの思惑で我田引水の方向の意見が見え隠れしているようです。今後、社会保障をどのように構築していき、そのための費用をどう手当てするかがはっきりした方向性を示さない限り国民は納得できないでしょう。消費税等をどうするか議論が中心ではなく、社会保障を今後どうすべきなのか議論をしていかなければと混迷した議論の結果、訳の解らないシステムになりそうです。
現場はひたすら地域貢献に寄与していきたいでしょう。

吉備支部長

済生会吉備病院
院長 高田 眞治

二〇一二年が良い年でありますように。
今年期待されること
東日本大震災の被災者の方々ができるだけ元に近い生活に戻れるよう復興が進むこと。
今年不安なこと
TPPでわが国の国民皆保険制度が崩壊するかもしれないこと。

今年しておきたいこと
D社やO社のようなことでマスコミの話題にならないよう、企業（病院）コンプライアンスの体制を整えること。
今年もよろしくお祈りいたします。

高梁支部長

こころの医療たいようの丘ホスピタル
院長 原田 俊樹

明けましておめでとうございます。
未曾有の大震災の爪痕と原発課題を多く残したまま新しい年を迎えました。本年は医療界にとつて診療・介護報酬同時改定という大きな改革の年です。大病院や急性期医療のみに偏らない健全な改革を期待します。

当院では昨年新築を行い、病院名も「高梁病院」から「こころの医療たいようの丘ホスピタル」と一新しました。本年より医療計画4疾病5事業に精神科疾患が加わり5疾病となりました。益々精神科医療の重要性が高まる中、その担い手として地域医療に十分貢献できるように精進して参ります。

新見支部長

長谷川記念病院
理事長 院長 長谷川 賢也

新年明けましておめでとうございます。
昨年も新見地区では、以前と同じように医師をはじめとする有資格者の少なさが続いています。当然一人当たりの仕事量はかなりのもので、本人だけでなくその家族にもかなりの負担があるものと思いますので、心苦しいところです。そういうところにも崩壊の端緒は隠れています。

以前から新見地区は基幹病院がないのが問題とされています。小規模病院の寄り集まりゆえの問題点はわかっているのですが、問題が大きすぎてたやすく解決できませんし、寄り集まりならではの良さもあるのも事実であります。本年も4病院が今までどおり連携をとって地域医療を守りたいと思います。
本年もよろしくお祈り致します。

真庭支部長

総合病院落合病院
院長 井口 大助

新年明けましておめでとうございます。
昨年、我が国はかつてない大災害に見舞われ大変な年でした。一刻も早い復興を祈念しております。真庭支部では残念ながら病院が1つ減り、開業医の先生も少しずつ減ってきています。事実として、医療の提供に支障が出てきていることを実感しております。厳しい状況ですが新たな体制のもと、各病院間の連携をさらに密に図るとともに、開業医の先生方も今まで以上に連携をとり、真庭市全体で充実した医療を提供していきたいと思っております。
今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

津山支部長

津山中央病院
名誉院長 徳田 直彦

新年明けましておめでとうございます。
昨年末は司馬遼太郎の「坂の上の雲」第3部（完結編）が放映され、国家の危機に臨む、明治の日本人の心のありよう（気概と覚悟）に感激しながら見ていました。

昨年の大震災や原発事故を「想定外」の言葉で、責任を取りながら平成のリーダー達は、明治人に顔向けできるのでしょうか。今後、現政権が財務省の傀儡化から脱却し、国民にこの国の明るいビジョンを提示することができると疑問です。少なくとも私たち医療人は長年にわたって、地道な努力を続けており、明治人に誇れる業績を上げています。すべての病院が地域住民の健康と福祉を担い続けている事実を誇りをもちながら、今年も頑張りたいと思います。
本年もよろしくお祈り申し上げます。

東備支部長

長島病院
理事長 院長 長島 洋

新年明けましておめでとうございます。
ますます日本の将来像が不透明になっています。あらゆる分野で言えると思います。
医療の世界も変わりません。今回のTPP問題を見ても、日本は資本主義社会を選んでいない以上、自由化は当たり前のことです。残念なのは、資本主義社会を波及していく自由民主党の代議士がTPP反対だと言っていることで、理解に苦しみます。民主党は、社会主義がいいと思っている代議士がいるため、反対者がいるのはあたりまえです。
自由化の波のなかで、医療を受ける立場にたつていかにあるべきかを考えていくのがオーソドックスな考えではないかと思えます。そこから諸外国に負けない医療政策を生み出していくことが大事だと思います。
医療現場にいるわれわれがやらすして誰かやる。



2012年の